

スマートフォン用アプリを用いた商店街活性化に関する研究

Study on activation of shopping streets using smartphone apps

佐藤徹治研究室 1024245 檜舘 舜
1024252 野澤 暁

1. 背景と目的

近年、地方都市中心部や大都市圏の生活拠点の多くの商店街では、人口減少、郊外ロードサイド型大規模商業施設との競合、商店の後継者難を背景に、来街者数の減少、売り上げの減少に直面し、いわゆるシャッター街も増加の一途を辿っている。このような状況を打破するため、最近のスマートフォンの急速な普及に対応し、来街者の利便性向上を目的としてスマートフォン向けに情報提供を行うアプリを開発している商店街も全国で数例ある。しかし、アプリによる情報提供の活性化への寄与は明らかになっていない。

そこで、伊藤・原田・吉田（2012年度卒業論文）では、来街者の利便性を向上させるスマートフォン用アプリの開発、商店街の活性化の計測方法の検討を行い、開発したアプリを実際の商店街に試行的に導入した。これを踏まえ本研究は、アプリ認知率をさらに高める方法の検討、商店街の利用を促進する商店街イベントやクーポンの検討、これらのアプリ上での表示方法の改良を行い、アプリを用いた商店街活性化の方法を検討することを目的とする。

2. 対象商店街

対象商店街は、昨年度対象とした東京都葛飾区のお花茶屋商店街、及び千葉県船橋市の西船橋商店街の2つの商店街とする。表-1に、対象商店街の概要を示す。

表-1 対象商店街の概要

対象商店街	最寄駅	乗車人数	商店数
お花茶屋	京成お花茶屋駅	15,482人/日	111軒
西船橋	JR西船橋駅	126,834人/日	88軒

3. アプリの改良・開発

昨年度開発したアプリは、iPhone、Android等のすべてのOS・端末に対応可能なWebアプリで、Googleマップをベースに、各店舗の位置を店舗種類のアイコンで表示し、各アイコンから各店舗の紹介ページ、クーポン等にリンクする構成となっている。

本研究では、昨年度開発したアプリを昨年度の課題、商店街管理組合からの要望等を踏まえて一部改良するとともに、西船橋商店街向けアプリを新たに開発する。昨年度アプリからの主な改良点は以下の通りである。

- ・トップ画面に、イベント情報、クーポン更新情報等を表示させる。
- ・各大カテゴリーをクリックした際に、マップ上に各大カテゴリーの店舗のアイコンのみ表示させる。

開発中の西船橋商店街向けのアプリの全体マップ画面を図-1に示す。



図-1 西船橋商店街向けアプリの全体マップ画面

4. アプリの認知率向上方法の検討

アプリの認知率を向上させるための方法として、以下が考えられる。

- ・公式ホームページ上に本アプリのリンクを設ける。
- ・商店街主催のイベントが行われる際に、アプリ情報を掲載したチラシを事前に新聞配達、また当日手渡しで配布する。

対象商店街における今年のイベントをまとめたものを表-2に示す。

表-2 イベント一覧(2013年)

開催商店街	内容	開催日
お花茶屋	福引き抽選会	7月5日~6日
	ふるさと祭り(盆踊り)	8月1日~3日
	福引き抽選会	11月10日
西船橋	チャリティーバザー	6月第1週
	クリスマスツリー点灯イベント	11月11日

5. アプリを用いた商店街活性化の方法

アプリには、店舗情報、店舗の紹介動画、商店街のイベント情報を掲載する。さらに、クーポンの配信やその他特典を設けることにより、商店街を利用する来街者の増加へとつなげる。

6. 活性化の計測方法

活性化の計測方法は以下の通りとする。

- ・一定時間のビデオカメラの撮影によって来街者数をカウントする。
- ・来街者に対してアンケート調査を実施し、アプリ認知率を把握する。
- ・店主に対してアンケート調査を実施し、来店者数および売り上げの変化を尋ねる。